

厚生労働省委託事業
聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会2020

【分科会1】
ひきこもり・ニートへの
教育支援

松崎 丈 氏
(宮城教育大学教育学部 准教授)

I. 特別支援学校の現状

① 学校

- 家族及び学校の適切な係わりの不足さに起因すると
思われる事例
- 家族や学校側によって不本意な転校をさせられた事例
- 知的障害や精神疾患のある親への対応の困難に起因すると
思われる事例（特に幼児期）
- 地方で根強く残る座敷牢（私宅監置）と学校側の口話主義
（聴能主義）に起因する事例
- ろう・難聴当事者を持つ家族への対応が年齢とともに減少
（特に中・高等部）

I. 特別支援学校の現状

②寄宿舍

- 教育的入舎だけでなく、福祉的入舎、緊急入舎としても活用
- 児童施設での対応より聾学校寄宿舍の方がコミュニケーション保障の観点から適切
- ある地域では2か月以上のひきこもりの児童生徒の事例は過去30年間皆無
- 週末の対応は難しく、家族関係への介入も困難

Ⅱ. 通常の学校の現状

- 差別やいじめなど学校側の不適切な対応に起因すると思われる事例
- 中途失聴や進行性難聴を経験し、家族や学校とのつながり直しに時間を要する事例

Ⅲ. 学校卒業後の現状

- ひきこもり・ニート経験者の発見が困難
(ろう学校同窓会、ろう・難聴当事者向け相談会での接点や親からの情報開示)
- 大学進学や職場適応に向けた聴者社会（マジョリティ社会）への文化的移行支援が皆無
- 企業における聴覚障害関係支援のうち、聴覚障害者向けの研修の実施
 - 2006年で2.3%
 - 2014年で3.1% と微増している
- 一方、設備整備や聴者向けの研修は増加

IV. 支援者の現状

- 聾学校におけるスクールカウンセラーの導入状況は、平成25年度調査で22校／73校（30.1%）
- 通常の学校における聴覚障害のある事例への対応は見当たらず
- 支援者（カウンセラー、教育支援員など）と学校側との信頼関係の難しさ
- 家族関係の介入のようにソーシャルワークとして関与することの難しさ